



ワーク1 『今日から私、「親」になりました』

- こんな場面を想像してみましょう。

あなたには、大切に思っている夫（または妻）との間に、待望の子どもができました。ベビーベッドで、スヤスヤと眠るわが子を見つめながら、子どもの将来のことを考えています。「私も『親』なんだ…。」
そのとき、ふと、子育ての先輩でもある友人二人との会話を思い出しました。

Aさん：「この頃、子どもに注意したら『いちいち何でも、うるさすぎ！』って怒るんだ。親が子どものしつけをするは当たり前なのに…。」

Bさん：「そうなの？うちは子どもが元気に育ってくれるだけで十分と思っているから、特に何も言わないよ。」

- ◇ あなただったら、どちらの考え方に賛成しますか？理由も考えてみましょう。
() さんに賛成、なぜなら…

→ 記入ができれば、グループで話してみましょう。



ワーク2 『子どもへの親の思い』

- まず、次ページにある詩を読んでみましょう。

① 詩を読んで、感じたことを書いてみましょう。

② 詩のエピソードを聞いて、感じたことを書いてみましょう。

資料

あなたのお母さんでよかった

石井 恵子

あなたと歩いた二十数年は
迷子になりそうな日々だったけれど
あなたのお母さんになったから
出会えた人がいるのです
あなたのお母さんになったから
見えたものがあるのです

だから
あなたに会えてよかった
あなたのお母さんでよかった



～詩画集『あなたのお母さんでよかった』（詩：石井恵子、画：幸の実園利用者、編：幸の実園）より～

新たな視点

○「もし、私に子どもができなかったら・・・」

ファシリテーターが資料を紹介します。
その内容を聞き、子どもをもつことについての、様々な立場を知りましょう。

ふりかえり

- ◇ 改めて、考えてみましょう。
「子どもをもつ」（親になる）ということは、どういうことなのでしょうか。